

各 位

上場会社名	中央化学株式会社
代表者	代表取締役社長執行役員 宇川 進
(コード番号)	7895)
問合せ先責任者	取締役常務執行役員管理本部長 森本 和宣
(TEL)	048-540-2624)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年2月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成23年12月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	31,000	1,200	600	500	24.82
今回修正予想(B)	28,906	833	694	171	8.49
増減額(B-A)	△2,094	△367	94	△329	
増減率(%)	△6.8	△30.6	15.7	△65.8	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年12月期第2四半期)	30,268	1,122	815	986	48.95

平成23年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	66,000	3,200	2,400	2,000	99.26
今回修正予想(B)	65,600	3,000	2,200	1,400	69.48
増減額(B-A)	△400	△200	△200	△600	
増減率(%)	△0.6	△6.3	△8.3	△30.0	
(ご参考)前期実績 (平成22年12月期)	64,699	3,129	2,391	1,961	97.33

平成23年12月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	28,000	1,000	600	500	24.82
今回修正予想(B)	26,439	735	522	158	7.88
増減額(B-A)	△1,561	△265	△78	△342	
増減率(%)	△5.6	△26.5	△13.0	△68.4	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年12月期第2四半期)	27,955	898	682	746	37.03

平成23年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	60,000	2,900	2,100	1,900	94.30
今回修正予想(B)	59,400	2,600	2,000	1,300	64.52
増減額(B-A)	△600	△300	△100	△600	
増減率(%)	△1.0	△10.3	△4.8	△31.6	
(ご参考)前期実績 (平成22年12月期)	59,867	2,549	2,046	2,502	124.19

## 修正の理由

(第2四半期累計期間)

第2四半期累計期間における連結売上高は、東日本大震災後のイベント自粛等による消費マインドの落ち込みに加え、水産品の水揚げ減少や精肉・青果品の流通不足による食品包装容器の需要低迷などから、当初の売上高予想に対し7%程度下回る結果となりました。

営業利益は、上記の減収要因による利益の減少に加え、震災後、操業を停止している東北工場の製品生産を、他の各工場に移管したことで、運賃や保管料などの物流費が増加する結果となり、当初の営業利益予想に対し4億円程度下回る見込みです。

経常利益は、営業利益の減少を補完するため営業外費用の削減に努めたほか、為替差益が約60百万円発生したことなどにより、当初の経常利益予想を1億円程度上回る見込みです。

当期純利益は、上記のとおり経常利益が当初予想を上回るものの、東日本大震災による災害損失4億7千万円(稼働を停止している東北工場の操業固定費を含む)を吸収するまでには至らず、当初の当期純利益予想を3億円程度下回る見込みとなりました。

(通期)

通期の連結業績については、第3四半期以降、当社新製品の投入による製品出荷数の回復とともに、現在、高水準で推移している原材料価格の一部を製品価格に転嫁することで、その効果が売上高に寄与してくるものと予想されます。しかしながら、第2四半期累計期間の売上高未達分を挽回するまでには至らず、通期の連結売上高は、当初の予想に対し1%程度下回る見通しです。

営業利益は、東北工場の操業停止状態が当面続くことを想定して、より効率的な生産体制や輸送体制の整備・改善に努めるものの、第2四半期累計期間の不足分を吸収するまでには至らず、当初の予想を2億円下回る見通しです。

経常利益は、第2四半期累計期間で発生している為替差益が、外国為替市場の動向次第では通期で相殺されると予想している他、抑制に努めてきた営業外費用も第3四半期以降で支出が予定されているため、当初予想に対し2億円下回る見通しです。

当期純利益は、上記のとおり経常利益が当初予想に対し2億円下回るうえ、東日本大震災による災害損失費用の計上により、当初予想に対し6億円下回る見通しです。

(注)本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき将来予測を判断した見通しであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

以上